



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 267

2019/04/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

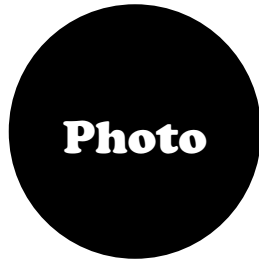
GREEN COLUMN

01. 植物標本を見る楽しみ

02. 外来種のワカサギ



今月の一枚



「春、愛らしさ満点。」

表紙写真・文／城坂結実

北海道の林や森に咲く春植物は種類も豊富で、その美しさは格別です。春に咲く好きな花は？と尋ねられれば、フクジュソウ類にスミレ類、エゾエンゴサクなど挙げればきりがありません。

薄紫色の花を咲かせるフデリンドウも、そんな春植物の一つ。草丈が小さく、落ち葉に埋もれるように咲く姿には「愛らしい」という言葉がピッタリです。

Event. 今月のイベント

企画展「絵を描く心～岸本裕躬作品より」～10月20日（日）

ロビー展「お宝見せます」 4月13日（土）～5月14日（火）

プチ工房「マールブルクレヨンのストラップ」 4月17日（水）, 19日（金）

国際博物館の日 記念行事 4月20日（土）

Information. 参加者募集

プチ工房 「マールブルクレヨンのストラップ」

● 4/17（水）, 19（金）10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（300円） ●久保田結衣（美幌博物館） ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

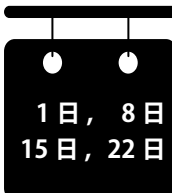
国際博物館の日 記念行事

● 4/20（土）9:30-17:00 入館無料

【展示解説】〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 17:00 ●美幌博物館 2F ●美幌博物館 学芸員 ●申込み不要

【コーヒーサービス】〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 17:00 ●美幌博物館 2F ●無料

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

植物標本を 見る楽しみ

写真・文／城坂結実



そろそろ、本格的な雪解けシーズンの始まり。日差しが暖かくなるにつれて、これから咲き出す色とりどりの花を思い浮かべて、心が浮き立ちます。

先月、美幌博物館学芸協力員の方にお手伝いいただき、植物標本の貼り付けと整理作業を行いました。昨年、野外で採取して押し葉にしたものを台紙に貼りつけたり、ラベルをつけ収蔵したりする作業です。この作業は、これまでに収蔵されている標本を見返すための、よい機会にもなります。

見返した過去の標本の中に、1962年に美幌町稲美地区で採られた、ムラサキ科ムラサキがありました（写真）。ムラサキは、古くからその根が紫色の染料として用いられていたそうで、なるほど標本の根の周辺を見ると、台紙が紫色に染まっています。日本では、奈良時代から江戸時代末期まで栽培さ

れていたようなので、昔は日本の各地で見られたポピュラーな植物だったのかもしれない。

しかし現在、ムラサキは、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類（近い将来における絶滅の危険性が高い種）、北海道のレッドデータブックで絶滅危惧種（絶滅の危機に瀕している種）に指定されています。

私自身は、まだムラサキを見たことがないのですが、今年はこの花との出会いを求めて野外に出かけてみようと思います。「新北海道の花」（北海道大学出版会）によると、開花は7月。草丈は40～60cmで、直径5mmほどの小さく白い花を咲かせます。

美幌町内で見かけた方はご一報ください。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

外来種の ワカサギ

写真・文／町田善康



ワカサギは、骨が柔らかく、味が良いので天ぷらや甘露煮でよく食べられ、冬季には氷に穴あけた穴釣りが人気です。産業価値は非常に高く、古くから陸封湖や人造湖に放流されてきました。

一方、網走湖のワカサギは、自然分布する生息地として有名な場所で、春には、周辺の川をさかのぼり、川底の砂に卵をばらまいて産卵します。美幌町まで遡上しているという、うわさ話はありませんが、これまでワカサギについては観察・採集記録がありませんでした。

しかし、2017年に予想していた場所とは全く別の山間のダム湖流入河川において、産卵遡上するワカサギが見つかりました。その後の調査で、このダム湖には、2004年以前までワカサギがいなかったことから、近年、人の手によって、放流されたことが明らか

になりました。

残念ながら、このワカサギは、人の手によってダム湖に持ち込まれた生き物。つまり、外来種なのです。ウチダザリガニのことを通して、外来種がこれ以上増えないように普及をしてきた矢先に起きた、ワカサギの放流事件は非常にショックな出来事でした。

ワカサギのような外来種が及ぼす自然への影響は、様々な事例が紹介されています。地域の自然を守るためにも、このような放流を止める実効性の高い法整備や社会づくりが望まれます。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



昨年、マスの遡上が多いという話をしましたが、その後、サケも多く見られた美幌川。冬になるとワシも多くみられました。毎朝、少し遠回りしてワシの姿を眺められるのは、北海道ならではの贅沢です。(町田)